

令和 8 年 7 月 23 日

株式会社スカパー・エンターテイメント
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社

Dlife チャンネル 番組審議会議事録

- ・日時 令和 8 年 6 月 3 日(木)17:20～
- ・開催場所 台風の影響によりオンラインにて開催
- ・参加者 審議委員総数 9 名
出席委員数 8 名
書面参加委員数 1 名

(出席委員名)

- 委員長 村川 幹夫 ((株)オリコン ME WEB 編集本部 取締役／編集本部長)
- 委員 太田 美千子 ((株)講談社 総務局局次長)
- 委員 清水 優子 (ナレーター・キャスター・(有)タイムリーオフィス代表)
- 委員 須貝 駿貴 (学術博士・QuizKnock)
- 委員 てい先生 (保育士・ユーチューバー)
- 委員 名越 康文 (精神科医・評論家)
- 委員 peco (ファッションモデル・タレント)
- 委員 よしひろ まさみち (ライター・編集者)

(書面参加委員名)

- 委員 堀越 礼子 ((株)朝日新聞社 常務取締役大阪本社代表)

(番組供給事業者側 参加者：ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社)

- 小林 信一 (バイスプレジデント
パートナーシップ / チャンネル)
- 小峰 利憲 (ディレクター ファイナンス&プランニング)
- 奥野 祥行 (シニアマネージャー マーケティング&クリエイティブ
/ プログラミング&アクイジション)
- 高橋 朋美 (編成 マネージャー)
- 杉崎 晴那 (編成 アシスタント・マネージャー)
- 待鳥 雅之 (編成 アシスタント・マネージャー)

- ・議題 (1) Dlife チャンネルの番組編成について

(2) 審議番組『トラッカー シーズン1』 について

・議事内容

(以下、*：委員からの意見・質問、→：ディズニーの説明・回答)

(1) Dlife チャンネルの番組編成について

→映画『トゥルーライズ』を1日(月) 22:00 にチャンネル初放送。

同タイトルのTVシリーズ初放送を記念して、映画版を先行して放送する。

→新番組・TVシリーズ『トゥルーライズ』を8日(月) 22:00 よりテレビ初放送。

平凡な日常の裏側は、命懸けの極秘任務。ジェームズ・キャメロン監督の同名大ヒット映画をドラマ化したもので、世界を股にかけて活躍するスパイ夫婦の大騒動を描く。

→TVシリーズ『リゾーリ&アイルズ』シーズン1～3を、8日(月)の10:00 から放送。

最強の女性コンビが難事件に挑む、痛快刑事ドラマ。

(2) 審議番組『トラッカー シーズン1』について

・放送概要：

令和7年6月27日(金)より放送開始。

全13話

・番組内容：

主人公のコルター・ショウは、腕利きの懸賞金ハンター。失踪者や逃亡犯に懸賞金がかかけられると現地に赴き、サバイバル術と専門的な追跡技術を駆使してあらゆる謎を解いていく。ハンドラーのテディとヴェルマ、天才ハッカーのボビー、そしてハーバード卒のエリート弁護士リーニーといった信頼できる仲間たちとともに、確実に失踪者を探し出す、1話完結の大ヒットミステリー・クライム。

→本作は、作家ジェフリー・ディーヴァーの『ネヴァー・ゲーム』という小説が原作となっており、ジャスティン・ハートリーが主人公を演じつつ、このシリーズの製作総指揮も務めている。

→2023～24年のシーズンでは、アメリカにおいて他の人気のシリーズを抜いて全米視聴率1位を取った作品であり、現時点でシーズン4まで更新されている。

*楽しく見た。視聴後に色々調べてみて、人気があると知った。

*賞金ハンターという職が、日本でなじみがないので、このような「悪い人」が出てくることが気になった。

- *賞金ハンターをどう見たらよいのか分からないが、主役のカッコよさ、ドキドキ、弁護士の出るシーンの面白さが良かった。
- *続きが見たい。
- *とても面白く、全米1位で、原作がジェフリー・ディーヴァーと聞いて納得した。
- *原作は長編だが、1話完結としてのアレンジが、メディア化として成功していると思う。
『メリー・ポピンズ』の例からも思うに、原作のメディア化には、色々な場合があるが、これは本当に素晴らしい。
- *ジェフリー・ディーヴァーの動画にて、彼は原作者としてテレビ化を応援していて、好意的に受け取っていた。それが可能なのは、キャラクターの魅力。特に、ボビーには味があって好き。物語に深みを与えていると思う。
- *全米各地を回るのかなという期待から、ロードムービー的になるのだろうか。個人的に憧れがあるし、ストーリーやアクションの面白さがあつた。
- *流石、全米視聴率1位のドラマ。キャラクターの作りが重層的で、ストーリーも重層的。事件の進行と主人公のヒストリーが縋り交ぜになって進行して、視聴者を飽きさせない。
- *原作の秀逸さ、演出、映像の緊迫感が、流石はハリウッドと思わせる作品。
- *また、登場人物のキャラクター作りもそれぞれが個性的かつ魅力的で、手練れの仕事を思わせてくれる。
- *久々に、続きを見るのが待ち遠しいと感じた作品。
- *謎解き、ラブロマンス、ガンアクション、カーチェイス、親子のハートウォーミングなシーンなど、盛り沢山で、あつと言う間の45分だった。
- *傷を抱えた男が、何を探し、どのようにして傷から救われていくかという話だと、よく伝わってきた。
- *今どきの作品は、主人公や設定をもっと分かりやすくするが、本作は、説明よりも主人公の生き方そのものを描いているところが、とても面白かった。
- *なぜ不明者を探すのかと考えると、父を救えなかった経験から代わりに他人を救っているのではないか。
- *何が主人公の傷を癒すかといえば、やはり仲間の存在や大人になって初めて得られた安心できる場所なのだろう。サバイバル能力ではなく、仲間のおかげで帰ってこられる。こういう部分が現実的に即した心の癒し方になっている。
- *大人は「傷は超人的な能力の元」という物語を好む。トラウマヒーローは基本的に現実的ではないので、都合のいい解釈で終わらないように見ないといけないのではないかと思った。
- *傷や自分が犯した過ちを癒していく展開やトレーラーハウスでの生活が、ベトナム帰還兵が多かった1970年代風の作品だと思った。懐かしさと、ある種のマッチョ思考がある中で、世捨て人になる人もいた。古き良き『ディア・ハンター』を思い出した。
- *本国では鳴り物入り。CBS放送だったが、これをDlifeで放送できるのは20世紀スタジ

オ制作だからかと納得した。

- * 1970～80 年代に似ているのはそのとおり。『THIS IS US/ディス・イズ・アス』のショールランナーであるケン・オリンがエグゼクティブプロデューサーを務めており、古き良き、いい作品が踏襲されている。
- * 『THIS IS US/ディス・イズ・アス』のケヴィン役だったジャスティン・ハートリーが主演にキャスティングされているのがエモい。日本ではこの座組を打ち出して、ライト層へポテンシャルをもっとアピールしても良かったのではないかな。撮影監督も『THIS IS US/ディス・イズ・アス』にも参加していたヤス・タニダ（谷田康久）氏である。
- * このように人を引きずり込むための策を取ったほうが絶対にいいと思う。どこと組んでもやってくれると嬉しい。
- * シーズン 1 の初回はスーパーボウルの直後に放送し、シーズン 3 が始まる前にシーズン 4 がアサインされていたことから、アメリカでの人気分かる。
- * 普段は同じ作品を繰り返し見ていて、新しいドラマを観るのが億劫なのだが、これはとても面白くて次々観てしまった。
- * コルターが格好いい！顔立ちもそうだが、ヒーローなのか、はたまた賞金ハンターという怪しい人なのか。『塔の上のラプンツェル』のユージーンのように、泥棒でもハートが優しい人が好きなので、ハマってしまう。
- * 1 話完結なのも良い。深みがあるけど、ややこしくないところが、観やすかった。
- * 主人公のバックグラウンドや周りの暖かさが心地よい。
- * いろんな人物が出るのが好きなので、本作は魅力的。おばちゃん同士のカップルはあまりみたことなかったが、すごく可愛くほっこりして、とても良かった。
- * トレーラー生活者と 1 話完結型の相性がいい。
- * 言うなれば、きれいな地面師みたいな感じで日本でもヒットすると思う。
- * 先程意見が出たように、「Dlife が放送する素晴らしさ＋どう視聴者を呼んでくるか、どう見てもらうか」が気になる。アメリカで一番人気でも、聞いたことがないタイトルのドラマがある中で、どう観てもらうか。仕事柄、素晴らしいものは観てほしいと思うので、観てもらい方ばかり考えしまった素晴らしい作品だった。
- * 他チャンネルと違って、Dlife は面白ければよい。
- * 世界には戦争もあり、その中に生きる自分たちはトラウマだらけ。作業報酬ではないが、旅をすることで癒される。
- * 本作の根本はドメスティックなもので、自分と家族などの関係は他人に言えることではない。
- * はじめは映像の素朴さから 1.5 倍速で見ようとしたが、物語で惹き込まれた。
- * みんな凄まじいトラウマをもって生きているが、そこをデコラティブにせず演じ、物語にしたことで、力のある作品になった。
- * あえて批判すると、こんなに女性と寝なくても物語は成立するとは思った（笑）。

- *たしかに、今の時代にこんなモテる設定は、受け入れられるのか（笑）。
- *男性からすると、こういう設定は憧れであり理想だが、女性からは見え方が違うのではないかと思った。だが、女性の審議委員の方たちからも、概ね格好いいという意見だった。
- *いわゆる 007 的なものだと思う。
- *主人公が、どこことなく可哀そうな雰囲気顔をしていてズルい（笑）。
- *確かに、なぜこんなにも寝るシーンが入るのかと思ったが、その気持ち悪さによって、逆に気持ちよく現実に戻れる感じがあった。
- *そうだと思う。物語を置きにいつている。
- *良くも悪くもマッチョ思考が出ている。しかし、そこが新鮮に映って面白いと思った。
- ご意見にあったように、賞金ハンターは聞きなれないが、個人的には私立探偵のように依頼され人探しをして報酬で生活する人もいるのかと思い 1 話目を観た。1 話より 2 話目、3 話目と、だんだんと面白くなる。
- 日本では知名度が低いですが、今年 8 月にシーズン 2 を放送予定。アメリカではシーズン 2 もスーパーボウルの後の放送でなくとも No.1 で実力のある作品なので、先程頂いたご意見のとおり、チャンネルを挙げてプロモーションしていく。
- まだまだ日本未上陸の良作がたくさんあるので、今後も視聴者の皆様にお届けできるようチーム一丸となって尽力する。

・審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和 8 年 6 月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：

令和 8 年 7 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上